

毎月11日は「人権を確かめあう日」です。

# フェアトレード

日本では、日常的に食べられている食物や低価格の品物の多くが、海外から輸入されています。

これらの商品は開発途上国で生産されていますが、生産国ではその安さを生み出すために正当な賃金や対価が生産者に支払われなかったり、生産性を上げるために必要以上の農薬が使用され、環境が破壊されたりする事態が起っています。

生産者の人々の生活や事業が成り立ち、美味しくて品質の良いものを作り続けていくためには、労働環境や生活水準が保証され、また自然環境にもやさしい配慮がなされていくことが重要です。

フェアトレードとは「公平な貿易」のこと。つまり、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。

フェアトレードラベル運動は明確な基準を設定し、それを守った製品にラベルを貼付して、分かりやすく伝え、フェアトレードを広めていこう、という運動です。

国際フェアトレード認証ラベルは、その原料が生産されてから、輸出入・加工・製造工程を経て「フェアトレード認証製品」として、完成品となるまでの全過程で、経済的基準・社会的基準・環境的基準の3つの柱からなる、国際フェアトレードラベル機構（Fairtrade International）が定めた国際フェアトレード基準が守られていることを証明しています。



国際フェアトレード認証ラベル



現在では、世界120カ国以上で販売されており、この運動に批判的な意見もありますが、生産者が、これにより品質のよいものを安定して供給できれば、消費者にとっても、大変有益なことなのではないでしょうか。

日本でこの運動が始まったのは1993年で、海外と比べるとまだまだ市場は小さいものの、だんだんとスーパー等で製品が販売されるようになりました。

最近では、大手ブランドがラベル認証製品のラインナップを増やし、積極的に活動に取り組んでいます。

少し価格が高いかもしれませんが、フェアトレード認証製品を手にとってみて、気に入ったものがあれば、購入されてみてはいかがでしょうか。

宇陀市人権啓発活動推進本部

2014.2